

6) 子どもの健康と生活 (Q15～Q49)

(1) 健康診査と受診の感想 (Q15)

Q15 お子さんがこれまでに受けた乳児健診に満足していますか。

	児の年齢区分										合計			
	1歳		1歳6か月		2歳		3歳		4歳				5-6歳	
満足している	917	89.2%	956	89.0%	712	89.9%	554	88.9%	570	87.8%	828	88.9%	4537	89.0%
満足していない	104	10.1%	107	10.0%	74	9.3%	61	9.8%	67	10.3%	90	9.7%	503	9.9%
健診は受けたことがない	1	0.1%	2	0.2%	3	0.4%	1	0.2%	3	0.5%	5	0.5%	15	0.3%
不明	6	0.6%	9	0.8%	3	0.4%	7	1.1%	9	1.4%	8	0.9%	42	0.8%
合計	1028	100.0%	1074	100.0%	792	100.0%	623	100.0%	649	100.0%	931	100.0%	5097	100.0%

これまでに受けた乳児期健診に対する満足度は、全体で「満足している」90%、「満足していない」10%、「健診を受けたことがない」0.3%であった。

Q15-1 お子さんの乳幼児健診は主にどこで受けましたか。【Q15で「1.満足している」または「2.満足していない」の場合】

	児の年齢区分										合計			
	1歳		1歳6か月		2歳		3歳		4歳				5-6歳	
保健所、保健センターの集団健診	537	52.6%	690	64.9%	570	72.5%	491	79.8%	521	81.8%	752	81.9%	3561	70.7%
開業医・診療所	231	22.6%	166	15.6%	101	12.8%	56	9.1%	61	9.6%	65	7.1%	680	13.5%
病院	173	16.9%	127	11.9%	65	8.3%	41	6.7%	37	5.8%	56	6.1%	499	9.9%
その他	9	0.9%	6	0.6%	4	0.5%	4	0.7%	4	0.6%	8	0.9%	35	0.7%
不明	71	7.0%	74	7.0%	46	5.9%	23	3.7%	14	2.2%	37	4.0%	265	5.3%
合計	1021	100.0%	1063	100.0%	786	100.0%	615	100.0%	637	100.0%	918	100.0%	5040	100.0%

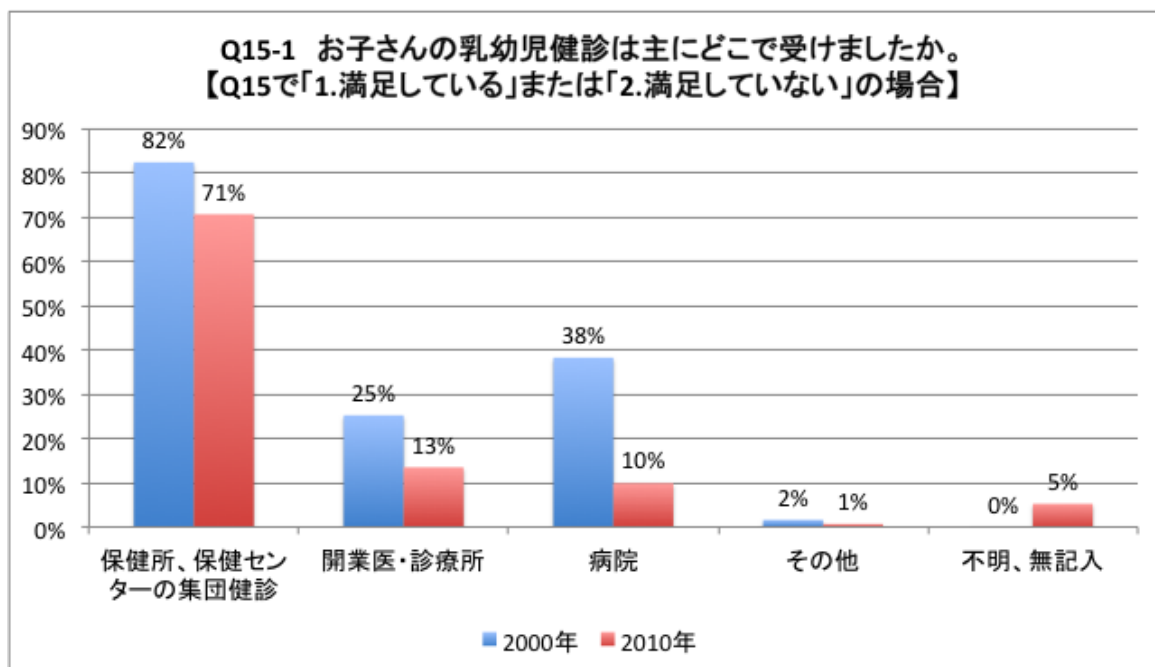


図 1 Q15-1 お子さんの乳幼児健診は主にどこで受けましたか。

受診した場所は、全体で保健所・保健センターでの集団健診が一番多く71%、次いで開業医・診療所13%、病院10%の順である。(図1)

Q15-2 そこで受けた健診の感想はいかがですか。(複数選択)

	児の年齢区分										合計			
	1歳		1歳6か月		2歳		3歳		4歳			5-6歳		
信頼がおけて安心できた	462	45.2%	429	40.4%	324	41.2%	245	39.8%	251	39.4%	361	39.3%	2072	41.1%
医師や保健師の話が勉強になった	347	34.0%	405	38.1%	326	41.5%	215	35.0%	228	35.8%	300	32.7%	1821	36.1%
栄養士の話がためになった	192	18.8%	208	19.6%	165	21.0%	119	19.3%	129	20.3%	185	20.2%	998	19.8%
心理士の話がためになった	10	1.0%	29	2.7%	32	4.1%	26	4.2%	27	4.2%	34	3.7%	158	3.1%
友達ができてよかった	61	6.0%	64	6.0%	57	7.3%	43	7.0%	56	8.8%	81	8.8%	362	7.2%
もっとゆっくりした時間がほしかった	113	11.1%	105	9.9%	69	8.8%	55	8.9%	35	5.5%	59	6.4%	436	8.7%
個別の相談がしたかった	50	4.9%	38	3.6%	28	3.6%	17	2.8%	19	3.0%	21	2.3%	173	3.4%
決まりだから受けた	193	18.9%	219	20.6%	182	23.2%	158	25.7%	161	25.3%	264	28.8%	1177	23.4%
知っていることばかり教えられた	31	3.0%	39	3.7%	30	3.8%	33	5.4%	33	5.2%	44	4.8%	210	4.2%
形式的だった	203	19.9%	202	19.0%	125	15.9%	121	19.7%	111	17.4%	179	19.5%	941	18.7%
その他	76	7.4%	94	8.8%	61	7.8%	59	9.6%	70	11.0%	92	10.0%	452	9.0%
不明	21	2.1%	27	2.5%	24	3.1%	16	2.6%	13	2.0%	14	1.5%	115	2.3%
ケース合計	1021	100.0%	1063	100.0%	786	100.0%	615	100.0%	637	100.0%	918	100.0%	5040	100.0%

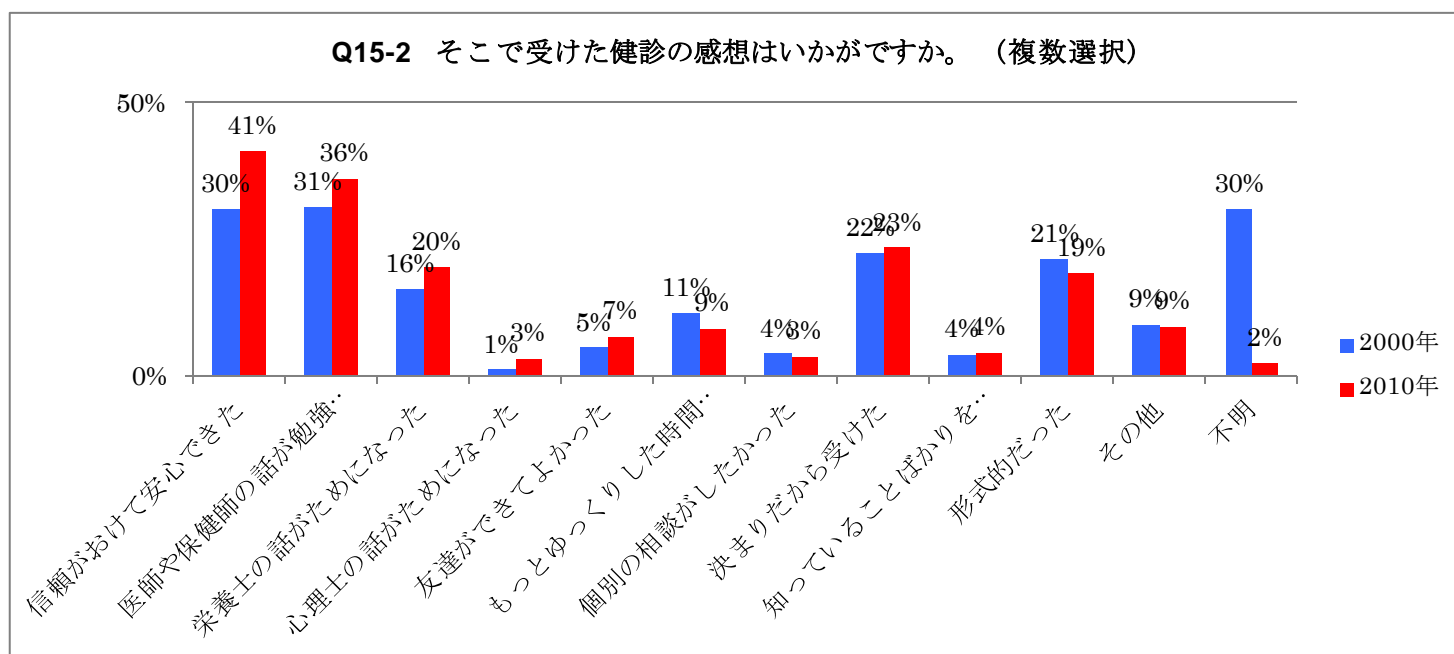


図 3 Q15-2 そこで受けた健診の感想はいかがですか。

健診を受けた感想について、平成12年値と共にみると、「信頼がおけて安心できた」30%→41%、「医師や保健師の話が勉強になった」31%→36%、「栄養士の話がためになった」16%→20%の順であり、平成12年値よりもよい評価は上昇していた。要望として「もっとゆっくりした時間がほしかった」11%→9%には今後応えるべきであろう。また、「知っていることばかり教えられた」4%→4%について、従来みられる一方的な指導というあり方が問われているといえる。「決まりだから受けた」22%→23%、「形式的だった」21%→19%をうけて、心の通った親切で丁寧な質のよい健診を心がける必要がある。

これまでに受けた乳幼児健康診査(以下:乳健)に対する満足度は「満足している」と「満足していない」の2段階評価で90%の保護者が乳健に対して満足している。日本家庭子ども総合研究所の「乳幼児健診の『満足度』評価に関する研究」でも、健診内容の評価を5段階評価し、乳健が子どもの健康状態のチェックについて86%の保護者が十分だったと答えている。同様に母親の悩みや不安についての対応も81%の保護者が十分だったと答えている。保健所・保健センターでの集団健診の場合、このアンケートが行われたので集団健診が71%と多かった。健診が集団健診の場合、「時間がかかり過ぎる」「待ち時間が長い」「待ち時間の過ごし方・遊べるスペース」「健診を午前中にして欲しい」などの要望がある。

(10)育児の相談相手(Q24)

	児の年齢区分										合計			
	1歳		1歳6か月		2歳		3歳		4歳				5-6歳	
夫婦で相談する	819	79.7%	863	80.4%	616	77.8%	501	80.4%	498	76.7%	723	77.7%	4020	78.9%
祖母 (または祖父)	717	69.7%	736	68.5%	537	67.8%	410	65.8%	421	64.9%	586	62.9%	3407	66.8%
近所の人	117	11.4%	126	11.7%	100	12.6%	105	16.9%	93	14.3%	148	15.9%	689	13.5%
友人	662	64.4%	703	65.5%	526	66.4%	417	66.9%	427	65.8%	619	66.5%	3354	65.8%
かかりつけの医師	139	13.5%	110	10.2%	79	10.0%	46	7.4%	63	9.7%	81	8.7%	518	10.2%
保健師・助産師	58	5.6%	55	5.1%	43	5.4%	19	3.0%	26	4.0%	24	2.6%	225	4.4%
保育士・幼稚園の先生	160	15.6%	200	18.6%	172	21.7%	179	28.7%	206	31.7%	349	37.5%	1266	24.8%
電話相談	21	2.0%	14	1.3%	6	0.8%	6	1.0%	1	0.2%	2	0.2%	50	1.0%
インターネット	144	14.0%	125	11.6%	77	9.7%	56	9.0%	37	5.7%	49	5.3%	488	9.6%
誰もいない	5	0.5%	5	0.5%	6	0.8%	5	0.8%	7	1.1%	8	0.9%	36	0.7%
その他	89	8.7%	102	9.5%	62	7.8%	41	6.6%	58	8.9%	69	7.4%	421	8.3%
不明	10	1.0%	5	0.5%	6	0.8%	9	1.4%	9	1.4%	9	1.0%	48	0.9%
ケース合計	1028	100.0%	1074	100.0%	792	100.0%	623	100.0%	649	100.0%	931	100.0%	5097	100.0%

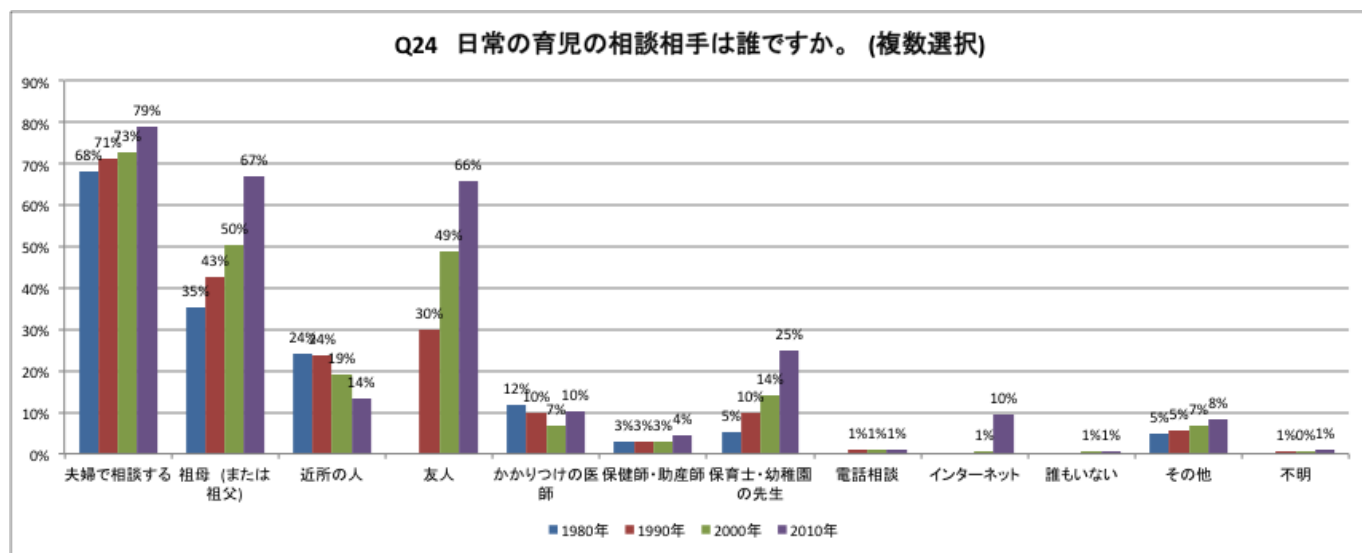


図 1 Q24 日常の育児の相談相手は誰ですか。

日常の育児の相談相手を平成12年値みると、全体では、夫婦で相談する場合が73%→79%と最も多く、次に、祖父母50%→67%、友人49%→66%、保育士・幼稚園の先生14%→25%、近所の人19%→14%、かかりつけの医師7%→10%の順に多かった。保健師・助産師は4%であった。これらの値については、児の年齢による大きな差は認められなかった。保育士・幼稚園の先生は、3歳以降に増加がみられ、3歳児14%→29%、4歳児24%→32%、5-6歳児24%→38%であり、子どもが集団生活に入ることにより、身近で相談しやすい相手になると思われた。

昭和55年値及び平成2年値、平成12年値との比較では、祖父母を相談相手とする割合が、昭和55年では25～41%、平成2年の35～48%に対し、平成12年の42～57%、今回の66～68%と各年齢層で増加した。核家族化の進行にも関わらず、祖父母への相談が増えていることはよい傾向であろう。ただし、身近に相談する人がいないことの反映ととらえれば問題になろう。なお、割合は低いが相談相手が

誰もいないものが約1%いることに留意したい。

育児の相談相手では、配偶者・祖父母・友人など、家族や身近な人に育児の相談先にしている。専門家では、かかりつけ医・保健師・助産師・保育士・幼稚園教諭など、子どもが集団に参加する時期に保育士・幼稚園教諭の割合が増加する。現在、インターネット上のサイトを検索したり、メーリングリストの仲間に相談が増加しているので、インターネットに関する選択肢を検討する必要がある。

ベネッセ次世代育成研究所の「幼児の生活アンケート報告書」によれば、育児相談先の数と子育てに自信を持てるようになったとの間に関係があるとされる。相談先の数の多少で分けると、相談したことのある相手が多岐のわたっている母親ほど、「子育てに自身が持てるようになった」と回答する割合が高くなる。今回の調査で、相談相手が誰もいないものが約1%いる。健診の場で相談先が少ない場合と誰もいない場合は子育てのリスクと考える必要がある。